三愛 view（ビュー）

発行所：三船病院相談室
創刊日：2003 年 8 月 15 日
〒763－0073
香川県丸亀市柞原町 366
Tel　0877－23－2341
Fax　0877－23－2344

褥瘡対策委員会の活動を通して考える

委員長　　医師　中野　太郎

近年、高齢化が進み褥瘡（じょくそう）に対する関心が高まっています。病院や施設関係者だけでなく、在宅での介護など一般の方々も褥瘡に関わる機会が多くなってきているようです。当院でも入院中の方の高齢化により、日常生活自立度が低くなり介護を必要とする方々が増えています。それに伴い平成 14 年 8 月より当院でも褥瘡対策委員会を設置し、活動を始めました。その基本構成員は専任の医師（委員長）・専任の看護師（副委員長）、看護部長、看護副部長、関係病棟の看護師長、薬剤師、栄養士などであり、必要に応じてその他の部署も参加しています。

褥瘡は皮膚のある部位に持続的に圧迫が加わることにより皮膚への血流が途絶え、酸素や栄養が足りずに皮膚が死んでしまった状態です。「褥瘡対策」という言葉からは、できてしまった褥瘡の治療に関わっていくことが連想されがちです。もちろんそれも大事な対策の1つですが、褥瘡を作らないための予防に取り組んでいくこと、つまり「予防対策」も大変重要なのです。

当院の具体的な褥瘡対策を簡単に説明すると、まず日常生活自立度を判定し、自立度の低い方それぞれに合わせた診療計画を定期的に立てます。例えば体圧分散寝具を使用する、体位変換を行う、栄養補給を工夫するなどです。褥瘡ができている方には、それらに加えて褥瘡の状態をこまめに評価し、薬剤による治療や処置を行います。

褥瘡対策委員会は、そういった褥瘡対策が適切に行われるために色々なアドバイスをしたり、きちんとできているかのチェックをしたりする目的で開かれています。現在、当院で開かれている褥瘡対策委員会のおおまかな流れは次のようになっています。

月に一度開かれる委員会の前に、委員長と副委員長で関連病棟を回診します。それぞれの病棟で、日常生活自立度の低い方の状態はどうか、褥瘡治療を行っている人についてはどう変化しているか、困っていることがないか、何か要望がないかなどの情報を集めます。その結果をまとめ、委員会で発表します。1 ヶ月間で新たに褥瘡になったり、悪化した方がいればその原因を考え、不足している褥瘡予防・治療器材の補充を検討したり、他の部署からアドバイスをもらったりして話し合いを行います。また院外で開かれた褥瘡に関する勉強会に参加して、そこで得たことを委員会で情報提供し、院内職員にも広めるようにしています。その他に職員全体に教育を行うという役割もあり、年に 1～2 回、院内での講義を行っています。

褥瘡対策委員会ができて病院全体で褥瘡対策に取り組むようになり良くなった点はいくつかありますが、一番は職員全体が褥瘡に関心を持つようになったことだと感じています。以前は私も他の職員も専門外のことで知識が不十分であったと思いますが、褥瘡対策委員会の発足により褥瘡を予防しよう、治療しようという意識の向上につながりました。そして褥瘡が早期に発見されるようになり、重症化する割合が確実に減少しています。

このような委員会活動を行っている中でも、新たに褥瘡になる方がいるという現状があります。褥瘡に関心を持ち、予防や対策を行うことで成果を上げ、褥瘡をゼロに近づけていくことを目標にして、これからも病院全体で褥瘡対策を行っていきたいと考えています。

三船病院相談室ＰＳＷの役割

相談室ＰＳＷ　西山 美智子

三船病院の相談室では精神保健福祉士（精神科ソーシャルワーカー、以下ＰＳＷ）５名が入院中の方、外来通院中の方1人1人に対し担当ＰＳＷを決めてケースワークを行っています。このように専属的に継続して関わることで、多岐にわたるニーズにもスムーズに答えられると考えます。

相談室ＰＳＷのソーシャルワーク業務には日常業務と相談室活動があります。

≪日常業務≫

① ケースワーク

受診・入院・退院の際の援助，療養上の問題調整である面会・外泊援助，経済問題調整，就労問題援助，住宅問題援助，家族問題調整，心理情緒的援助，医療上における人権擁護、地域生活援助としての家庭訪問など

② 地域活動業務

「丸亀広域家族会」定例会の出席，精神保健福祉連絡会［丸亀・多度津地区の関係者会］通称「かめたの会」定例会の出席と実行委員としての活動

③ 関連業務

ケースカンファレンスや当事者を含めた他機関との関係者会，処遇検討会，他機関との連絡調整，実習生の受け入れや見学者の対応，初診で来院された方への予診

≪相談室活動≫

①「相談室伝言板」「三愛 view」（法人機関紙）の発行

②「社会資源情報ファイル（もりもりファイル）」などの各病棟への設置と更新

③入院中の方への相談室セミナーの提供

④家族支援としての「家族教室」

⑤入院中の方数名で小グループを作り社会復帰に向けた活動をする「グループワーク」

これらの日常業務や相談室活動を行う上で、ご本人やご家族など日々多くの方に出会います。長期の入院となり病院が生活の場所になってしまい、病棟での生活が全てだと言う方に、退院の動機付けを行うのは大変難しいと感じることがあります。しかし実際に退院してそれぞれの生活を送り始めると、その方にとっての病院は地域で生活していく上での医療機関という位置づけに次第に変わっていきます。外来受診されたその方が相談室に顔を出してくださった時とても表情豊かになっていることに驚かされ、表面化・言語化されたニーズだけにとらわれていては見えてこないものもあるのだ、と考えさせられます。

相談室ＰＳＷとして病院内だけで関わりを完結させてしまわず、さまざまな機関や人と関わることで周囲の理解を求め個別のケースに生かし、一人でも多くの方が地域で生活を送れるよう支援できればと切に感じます。病院という組織の中で私たちＰＳＷがどのような働きをしていくべきか、現在の状況の中でどのようなことができるのか。忙しさと慣れに流されてしまわないよう日々の業務を振り返り、これからも考え続けていきたいと思います。

三船病院医師からのメッセージ・・・

正しい手の洗い方ご存じですか

三船病院医師　濱窪 俊二

感染対策委員長の任を仰せつかって早幾年、勉強不足のせいではあるのですが、調べても調べても、考えても考えても、次から次へと疑問がわいてきて正解が見つかりません。今できる範囲内で最善の方法をと思いながらやってはいますが・・・。

さて、感染対策のために必要な手の洗い方ですが、今正しいと言われている方法を列挙してみますと、以下のようになります。

① 手首５cmくらい、十分に両手をぬらす（長袖はまくっておく）。
② 石けんを手のひらにとり、よく泡立てる。
③ 両手をよくこする。
④ 手の甲と横もよくこする。
⑤ 指先は特に入念に洗う。
⑥ 指の間もよく洗う。
⑦ 親指と手のひらもよく洗う。
⑧ 手首も忘れずに洗う。
⑨ 流水で洗い流す。
⑩ 洗い終わったらペーパータオル等でよく拭く。手洗い時間として、少なくとも十秒以上必要。
⑪ 水道の蛇口はペーパータオルで閉め、直接手で閉めない。
⑫ 腕時計や指輪ははずし、爪も短く切っておく。

結構大変ですね。でもこれが感染対策上最も大切な事の一つです。こころがけましょう。

部門紹介　三船病院　臨床検査室

「検査は人の命を測り、
苦痛の原因をつきとめるためにある。」

臨床検査室には現在3名の臨床検査技師がおり、入院中･外来通院中の方々と職員を対象にさまざまな検査を行っています。検査の中には尿検査、便検査、血液検査、心電図検査、脳波検査などがあり、その日のうちに結果が出るものと外部に検査を依頼し数日かかるものとがあります。尿検査からは腎機能、肝機能、糖尿病、尿路感染などに関する有用な情報が得られます。さらに尿を顕微鏡で見ること(尿沈渣検査)によって、腎･尿路疾患(出血、炎症、細菌感染など)を推定できます。

次に血液検査をすると、もっと詳しい情報が得られます。血球計算機を使って、白血球数･赤血球数･ヘモグロビン値･ヘマトクリット値･血小板数などを計ると、体に炎症がある場合白血球数が増加し、貧血の場合ヘモグロビン値やヘマトクリット値が減少します。さらに血液像検査をするとより詳しく症状を推定できます。自動分析装置を使うと約３０項目の血清成分の分析ができます。これらの成分分析は、診断に非常に有用です。

向精神薬には、副作用として肝機能障害や腎機能障害を起こす恐れのある薬もあるので、定期的に血液検査をしなければなりません。基本的に血液検査は2ヶ月に1回行い、肝障害･高脂血症･高血圧･貧血などの病名がついている方に対しては毎月実施しています。異常値に達する結果が出た場合にはすぐ医師･看護師へ緊急連絡し、薬を変更したり、他科受診につなげるなどして対応しています。特に肝臓は「沈黙の臓器」と言われており、自覚症状が出にくいので検査が必要です。また副作用として不整脈や狭心症を起こす恐れのある向精神薬もあるので、定期的に心電図検査も行います。

以前は検査結果を医師や看護師に対して電話で知らせていましたが、聞き間違いや何度も問い合わせがありました。それが現在オーダリングシステムの導入によって、素早く正確に報告することができるようになりました。採血は痛みを伴うためあまり積極的に受けられる方は少ないと思いますが、症状を知るために検査は不可欠でありその説明は医師･看護師が行っています。今後も正確な検査を行う上で医師･看護師との連携が必要であると感じています。

臨床検査室

心理士コーナー

心 太

心理室課長　片山 泰生

静岡市で開催された日本集団精神療法学会へ行ってきました。体験グループ、 事例検討を中心に参加したので自分の持っている価値観やセンス、仕事上の振り返りが必要とされる場面もありました。特に体験グループでは私の話を巡ってのグループの動きがとてもアグレッシブになり自分自身の気づいていない思わぬメッセージになっていたのかなと考えています。

もう１０年も前になりましょうか。院長にご一緒させて頂く機会があり、その帰りに八十場のところてんを買い求めたことがありました。ところてんは非常にシンプルで無味透明な食べ物で、漢字にすると「心太」となります。心が太いタフでおおらか、ひとの心もそうあってほしいなと思ったりします。

三船病院の新棟も完成時の無味透明から日々の息吹が感じられるようになりましたが、さてその住み心地、使い心地は？▶私が担当しているアルコールゾーンのプログラムは4月からリニューアルし、より集団を志向したつくりになっています。集団療法のスペースが病棟内にあり、無味透明とはいかないところが難点ですが、徐々に改善していこうと思っています。ever since

【介護老人保健施設　福寿荘】

作業療法士　中内 弥生

老人保健施設のリハビリテーションでは、残存機能を維持･回復することによって家庭での生活を営めるようにアプローチしていきます。これは維持期のリハビリテーションであり、生活再建を目指す生活リハビリテーションです。

リハビリテーションの流れは評価に始まります。まず、現在自宅や居室棟などで食事･排泄･入浴等の日常生活動作や歩行などが毎日実際にどのように行われているか(している活動)を把握します。そして、この「している活動」とできるであろう活動「できる活動」とを区別し、両者の差を生む原因を明らかにすることが活動向上訓練プログラムを作成する上で大切となります。そして将来目指す生活「する活動」と目標を設定し、この目標に「できる活動」が向かうよう働きかけます。また看護職や介護職等は本人と直接関わることで目標に向かえるよう働きかけています。医師、作業療法士、看護師、介護職等の全職種が利用者本人及び家族の意向を踏まえ計画を策定し、皆の同意のもとに訓練を行っています。

【三愛会コミュニティケアセンター】

「地域生活支援センターはなぞのの取り組み」

地域生活支援センターはなぞの施設長　大石 由実

地域生活支援センターはなぞのは、地域で生活する精神障害をお持ちの方への日常生活の支援や相談への対応、地域内の機関や団体との協力関係を基盤にした地域交流活動等への支援を目的に、平成9年4月に開所し今年で8年目を迎えました。開所当初はスタッフ2名から始まりましたが、現在は施設長1名、精神保健福祉士3名、指導員2名の他、コンシューマースタッフ1名で業務を行っています。

さらに支援センターの機能を町中に点在させる目的で、平成13年4月、市の中心部にサテライト支援センター城西、さらに平成14年3月には市の北西部にサテライト支援センターつどいを開所させ、現在3ヶ所を拠点に活動しています。はなぞのは支援センターの中核として情報発信としての役割を担い、学習会や茶話会、グループ活動、機関紙発行、地域交流活動等を行っています。城西には水曜日と金曜日にコンシューマースタッフが常駐しており、ピアワークを中心にコンシューマースタッフのアイデアを活かした活動を行っています。つどいでは共同作業所との協力体制を大切にしながら、メンバーの発案で生まれたクラブ活動等を実施しています。

各支援センターは、これからもそれぞれに特色を出しながら、利用される方の多様なニーズに対応していきたいと考えています。

≪三船病院からのお知らせ≫

【行事予定】

・8月21日(土)　夏まつり

【委員会】

・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
・身体拘束廃止委員会(第１金曜日)
・医療事故防止委員会(第2水曜日)
・院内感染対策委員会(第3金曜日)
・褥瘡対策委員会(第4水曜日)

≪編集後記≫

初々しい若葉も一雨ごとにたくましさを増し、強い日差しに備えるころとなりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、相談室では6月2日（水）１４：００～ 第3回家族教室を開催することになりました。今回は「町の相談窓口」というテーマで、中讃保健福祉事務所の岡崎相談員を招いています。精神保健福祉サービスと地域の相談窓口についての講話、ご家族同士の話合いを予定しています。相談室ＰＳＷとして他機関との連携を大切にしながら、ご家族への情報提供の機会にしたいと思います。皆様、ぜひお越しください。

(相談室ＰＳＷ)